

ざいたく ちから か のうりよく はつき 在宅でITの力を借りて能力を発揮!

ふくしだんたい
福祉団体
だいひょうしや
代表者より

パソコンは武器になる。ITの力を借りて、その人の持てる力を発揮できるよう支援することによって、障害が重度でも才能を開かせていくことができる。知的障害のある人がITを駆使して働いている事例もある。

はたら ホームヘルパーとして働く

しゅうろうしえん
就労支援
かんけいしや
関係者より

知的障害のある人が、ホームヘルパーとして高い評価を得ながら働いている。同じ目線、気配り、飾らない働きぶりが評価されている。この仕事は全国どこにでもある。

からだ 身体もころもときほぐす…ヘルスキーパーという仕事

しゅうろうしえん
就労支援
かんけいしや
関係者より

視覚障害のある人が、資格を持つ専門家として、多くの企業で働いています。社員の健康管理の一助としてマッサージなどを行う「ヘルスキーパー」として活躍しているのです。ITを使って予約業務もこなしています。

なんど ちょうせん 何度でも挑戦できる!

マスコミ
関係者より

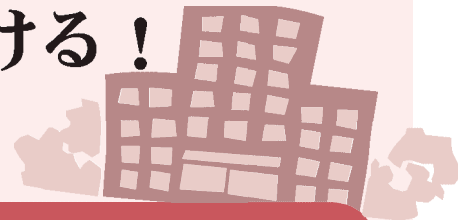
障害のある人の保護者たちは、失敗するとかわいそうだからと、挑戦したり、失敗したりする自由を、障害のある人から奪ってしまいがちです。

マスコミ
関係者より

一度就職したらずっとその企業で働きつづけるという雇用形態が変化しつつあります。また、企業でうまくいかなかったからといってそれで就職は終わりということではありません。雇用分野と福祉分野には何度でも再就職へ挑戦できるようなセーフティネットが稼働し始めています。こうした仕組みがもっと充実されるといいと思います。

工夫と支えがあれば働ける！

3



福祉との連携があれば

企業経営者・
団体関係者
より

福祉側の支援者は、自分が支援してきた人の「できること・できないこと」を正確に企業に伝えてほしい。そうすれば必要な支援策を考えることができる。また、障害についてよく知っている福祉側のノウハウや支援を企業と共有できれば、もっと多くの企業が障害のある人を雇用できるようになる。

企業と福祉の両輪

就労支援
実践者より

働くことができても、働き続けることはもっと難しいといわれます。離職の原因として、意外と多いのが生活面でのほころびです。仕事のことは企業にお任せし、生活面のことはもっと福祉分野がしっかり支えます。両者で良い関係をつくり「安心して働ける」「安心して雇用できる」、そんな関係を社会のそこそこに創っていきようではありませんか。

もっともっと接近しなければ／協働しなければ

福祉団体
代表者より

どうしてこんなにも開きが出てしまったのでしょうか。企業で働くことと最低賃金が保証され、施設や作業所だとあまりに低い工賃。しかし、企業で働いている障害のある人の数はかまっています。福祉サイドから押し出す力、企業が障害のある人を引き付ける力、双方ともに弱さがあるように思います。障害のある人びとをど真ん中に据えて、知恵を出し合えば必ずや魅力的な道は拓けるはずですよ。

企業経営者
より

経営者として障害のある人を雇用するのは、一つには社会連帯として障害のある人の雇用義務という「社会規範」を果たすことです。でも、それだけではありません。もう一つには、働く場でしか得られない感動や充実感をともに味わいたいと思うからです。企業は、その宝庫だと思います。

ネットワークの構築…地域を耕す

福祉団体
関係者より

福祉、医療、労働、教育関係者等の地域の関係者が日常的につながる場を設け、その中で互いに知り合い、互いに支え合うことが大切です。

そうすることで、障害者ひとりひとりの「働きたい」という願いを受け止め、安心して働きつづけられる機会を増やす取り組みが広がっています。私たちは、こうした取り組みを共働して応援します。

福祉団体
関係者より

「あの地域は特別だから」と言う人もいますが、そのネットワークをつくった人たちは、どこの地域にもある機関や、組織に所属する人たちです。自律的な市民感覚が求められている今日、多くの英知が「地域を耕す」ために連携するという気概こそが求められているのではないのでしょうか。

最後に

障害のある人の「働きたい」という切実な願いにこたえるためには、次のようなことが大切です。

「関係者の就労支援への意識を高めること」

「働く場や仕事を創ること」

「働くための工夫をし、支えていくこと」

「障害のある人もない人も共に働き・共に生きる社会」の
実現を願ってここに宣言します。

この宣言は、これで完成ではありません。さらに、多くの人の意見や知恵や実践を集めて、障害のある人の「働きたい」を応援する大きな流れとなることを願ってやみません。

しょうがいしゃ しゅうろうしえん かん ゆうしきしゃこんわかい いいん
障害者の就労支援に関する有識者懇話会の委員
(50音順、敬称略)

あん どう よしこ	滋賀県副知事
お くら 昌 男	(財) ヤマト福祉財団理事長
お じま しげる 茂	連合総合政策局生活福祉局長
かつ また かず お 夫	全国社会就労センター協議会副会長
かつら やす あ 雄	(株) 松下電器産業常務役員東京支社長
きた やま もり かず 典	(福) やおき福祉会紀南障害者就業・生活支援センター所長
こ いた まさ つく 次	(財) 日本知的障害者福祉協会会長
こ みや え 美	NHK解説委員
こ あみ ひろ やす 安	読売新聞社会部長
せき ひろ ゆき 之	大阪市職業リハビリテーションセンター所長
たけ なか ナ ミ	(福) プロップ・ステーション理事長
はたけ やま ち かげ 蔭	特例子会社(株) ビジネスチャレンジド前取締役社長
ふじ 井 かつ のり 徳	きょうされん常務理事
(座長) ほつ た つとむ 力	(財) さわか福祉財団理事長
まる やま ひろ みつ 充	ハートピアきつれ川就労支援相談役
みず こし さくえ	(株) イトーヨーカ堂常務取締役常務執行委員
やま ざき やす ひろ 広	(株) アクセスインターナショナル代表取締役社長
わ じま しのが 忍	日本経団連労働政策本部雇用・労務管理グループ長
たに ぼた たかし 孝	厚生労働副大臣

こうせいろうどうしょう しょうがいほけん ふくし ぶしょうがいふくしか
厚生労働省 障害保健福祉部障害福祉課
とうきょうと ちよだく かすみ せき
東京都千代田区霞が関1-2-2 TEL(03)5253-1111(代) 内線 3045

印刷：東京都板橋福祉工場

